

大学コンソーシアムひょうご神戸
2024 年度 第 4 回 国際交流委員会
議事次第

日 時：2025 年 2 月 14 日(金) 15:00～16:00 開催

開催場所：兵庫国際交流会館 1F Nadacom Station

委 員 校：兵庫県立大学(委員長校)、神戸市外国語大学(副委員長校)

明石工業高等専門学校、芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西福祉大学、
関西学院大学、関西学院短期大学、芸術文化観光専門職大学、甲南大学、甲南女子大学、
神戸海星女子学院大学、神戸大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸市看護大学、
神戸松蔭女子学院大学、神戸女学院大学、神戸親和大学、神戸常盤大学、
園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、流通科学大学
(計 27 校)

I. 審議事項

1. 2025 年度国際交流委員会 事業計画・予算(案)について (資料 1)

1) 【取組 1】兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業

災害時の外国人コミュニケーションツール「BOSAI コミュニケーションカード(仮)」の開発とフェーズ
フリーな活用の提案について

2) 【取組 2】加盟校の国際交流プログラムとの連携促進事業

①学生海外派遣プログラム

②事業年度内に加盟校で企画・実施し、加盟校に開放された国際交流プログラム

II. 懇談事項

1. 第 22 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム(2025 年兵庫県開催) 学生ステージについて (資料 2)

III. 連絡・調整事項

1. 2024 年度の国際交流委員会開催予定と主な議題について

第 5 回委員会 3 月:2024 年度 事業報告・決算(案)

以上

<資料一覧>

資料 1-1:【理事長名依頼状】2025 年度事業計画・予算(案)及び 2024 年度事業報告・決算(案)の作成依頼

資料 1-2①: 2025 年度国際交流委員会 事業計画・予算(案)について 取組 1

資料 1-2②: 2025 年度国際交流委員会 事業計画・予算(案)について 取組 2

資料 1-2③:「BOSAI コミュニケーションカード(仮)」の開発 企画概要

資料 1-3①: 2025 年度国際交流委員会 事業計画(案)

資料 1-3②: 2024 年度学生派遣プログラム実施報告_神戸常盤大学

資料 1-4: 2025 年度国際交流委員会 事業計画・予算(案)

資料 2: 第 22 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム(2025 年兵庫県開催)について

(参考資料 1) 2024 年度 各事業委員会活動の自己評価に対する改善提案

2025 年 1 月吉日

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
事業委員会 委員長 各位

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
理事長 中村 恵

2025 年度事業計画・予算（案）及び 2024 年度事業報告・決算（案）の作成について（依頼）

拝啓 寒冷の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当コンソーシアムの活動に深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、標記の件につきまして、下記のとおりご提出いただきますよう、よろしくお願いいたします。

なお、2025 年度事業計画の作成にあたっては、2024 年度の各事業委員会の自己評価をもとに企画運営委員会及び理事会にて作成した改善提案の内容を踏まえてご検討いただきますようお願いいたします。ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

敬具

記

1. 2025 年度事業計画・予算（案）及び 2024 年度事業報告・決算（案）の作成・提出

(1) 2025 年度事業計画・予算【鑑】（案）

提出期限：2025 年 2 月 14 日（金）正午

(2) 2025 年度事業計画・予算【詳細】（案）

提出期限：2025 年 5 月 8 日（木）正午

※第 6 回理事会(1/29)において来年度の各委員会事業に対する予算が承認されました。

委員会事業予算（総額）：600 万

(3) 2024 年度事業報告・決算（案）

提出期限：2025 年 3 月 27 日（木）正午

2. 今後のスケジュール

(1) 「2025 年度事業計画・予算（案）」

2025 年 3 月 17 日 第 7 回理事会にて審議・決定

2025 年 6 月（予定） 定時総会にて報告

(2) 「2024 年度事業報告・決算（案）」

2025 年 4 月（予定） 2025 年度第 1 回理事会にて審議、定時総会に上程

2025 年 6 月（予定） 定時総会にて審議・決定

（添付書類）

- ・添付 1) 2024 年度 各事業委員会活動の自己評価に対する改善提案
- ・添付 2) 2025 年度 【記入用】事業計画・予算（案）
- ・添付 3) 2024 年度 【記入用】事業報告・決算（案）

以上

委員長校	兵庫県立大学
副委員長校	神戸市外国語大学
委員校 (全:27校)	明石工業高等専門学校、芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西福祉大学、関西学院大学、関西学院短期大学、芸術文化観光専門職大学、甲南大学、甲南女子大学、神戸海星女子学院大学、神戸大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸市看護大学、神戸市外国語大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女学院大学、神戸親和大学、神戸常盤大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学、流通科学大学

中長期計画Ⅱ期の取組課題/達成目標/活動指標	
課題	課題⑤外国人留学生と日本人学生等の交流促進
取組1	兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業
達成目標	①本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合:参加学生の80%以上(期間中2回測定) ②参加者数 2500名以上/5年
活動指標	参加者数 500名以上/年
取組2	加盟校の国際交流プログラムとの連携促進事業 ①学生海外派遣プログラム ②事業年度内で加盟校で企画・実施し、加盟校に開放された国際交流プログラム
達成目標	①本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合:参加学生の80%以上(期間中2回測定) ②プログラム数 10件以上/5年
活動指標	プログラム数 2件/年

目的

「国際都市神戸」を有する兵庫県の大学・短期大学・短期大学部・高等専門学校が加盟するコンソーシアムとしてグローバル人材育成を目指した事業を展開する。

予算額	課題⑤外国人留学生と日本人学生等の交流促進	
	【取組1】	兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業
	【取組2】	加盟校の国際交流プログラムとの連携促進事業 ①学生海外派遣プログラム ②事業年度内で加盟校で企画・実施し、加盟校に開放された国際交流プログラム
		9,625,000円 (受託事業収入)
		50,000円

期待される効果

1. 兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業
- ・企画チームにおいて学生が主体的に学ぶことによる行動変容や、大学連携・産官学連携による留学生支援の新たな課題とニーズへの取組促進、地域や企業へ高度外国人材としての留学生の理解促進等の効果が期待される。
 - ・日本人学生や地域の高校生等の海外機運醸成、留学促進等、グローバル人材の育成が期待される。
 - ・留学生が地域で活躍したり、外国人への防災教育等の実施を通して、多文化共生社会の地域での拠点となることが期待される。
2. 加盟校の国際交流プログラムとの連携促進事業
- ・各加盟校の強み・特徴を活かした国際交流プログラムを加盟校に開放することで、自学では得ることができない学びの経験とネットワークの構築の機会を学生に提供でき、加盟校の学生の学びが深まり、人脈が広がることが期待される。
 - ・加盟校が抱える国際交流の課題を加盟校間で共有し、解決に向けたプログラムを実施することで、加盟校全体の国際交流の課題解消、多文化共生社会で活躍する学生の育成に繋がる効果が期待される。

課題⑤	課題⑤外国人留学生と日本人学生等の交流促進		
達成目標	①本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上（期間中2回測定） ②参加者数 2500名以上/5年		
課題を解決する 取組概要	<兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業> 兵庫国際交流会館において「大学間連携・産官学連携による人材育成」と「外国人留学生の受け入れから日本定着までの幅広い支援」によって、多様な人々が安全・安心に暮らし、互いに個人の尊厳と人権を尊重しながら、能力を最大限に発揮できる多文化共生社会の実現を推進すること。兵庫国際交流会館が多文化共生社会の実現に向けた取組を行う地域の拠点として認知されることを目指す。		
活動指標	参加者数 500名以上/年		
計画（4月記載）		自己評価（12月記載）	報告（3月記載）
1. 国際的視野を持ち、国際社会で活躍できる人材の育成 ・多国籍企画チーム「Team gnavi」の活動を実施 ・ファシリテーションやSNS等の研修 【各講座10～15名程】 2. 高度外国人材としての外国人留学生の日本定着に向けた取組 (1) 生活の支援 ア：防災教育の実施 【年1回以上、30名～100名】 イ：大阪出入国在留管理局神戸支局による在留資格の相談会の開催 ウ：生活相談や医療相談機関の案内 (2) 外国人留学生を活用した国際理解教育事業 ア：地域連携プログラム「英語村」 【年3回以上、各20人～50人】 イ：大学との連携による共同事業 【年1回4コマ程度実施、各20名～70名】 ウ：兵庫県国際交流会館との連携による交流研究発表会の参加勧奨、HIH寮祭（仮）などの実施 【各年1回、 各20～100名】 (3) 外国人留学生のキャリアサポート事業 日本企業と交流する機会や日本特有の就職活動、企業文化、ビジネスマナーを学ぶ機会の提供 【5回以上開催、各30名～100名】 3. 多文化共生社会の実現を推進する事業 「Nada Global village(NGV)」の実施 【年8回以上開催、 各20名～300名程度】 4. 情報発信事業と支援者間ネットワーク体制の強化 【毎年6回以上開催】			
達成目標に対する実績			
活動指標に対する実績			
自己評価基準：対到達目標 ※			—
自己評価基準：対継続性 ※			—

事業収支				
収入	支出	収支	支出	収支
9, 625, 000円				
理事会からの改善提案（次年度事業計画に反映）				
(企画運営委員会で原案作成、理事会承認を経て事務局にて記載、各事業委員会にフィードバック)				

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸×神戸学院大学

災害時の外国人コミュニケーションツール

「BOSAI コミュニケーションカード（仮）」の開発とフェーズフリーな活用の提案

企画概要

1. 背景

近年、日本国内で多発している地震や水害などの自然災害。2025 年 1 月 15 日には、南海トラフ巨大地震の 30 年以内の発生確率が 80%程度に引き上げられ、いつ起きてもおかしくない状況。

災害が起きた際に避難情報などが理解できないおそれがある外国人に対する備えとして「防災教育」と「コミュニケーションツール」の開発は不可欠だと考える。

2. 目的

災害時の情報不足などにより、災害弱者になりかねない外国人が取り残されないよう、阪神・淡路大震災 30 年を迎えた兵庫県でツール（手段）を作るだけでなく、フェーズフリーな活用を促し（防災訓練など）災害時も外国人が「安心」して情報を得て、行動をとることができる地域づくり（多文化共生社会）を目指す。

① 地域と顔を合わせる環境で外国人が防災知識を習得する機会を設けると同時に、災害時のコミュニケーションツール「BOSAI コミュニケーションカード（仮）」を開発する。

※Wi-Fi 環境がない場所では、スマートフォンにダウンロードされた翻訳アプリは使えない。

→災害時のお守りとして普及

② 「BOSAI コミュニケーションカード（仮）」を活用した災害図上訓練を検討する。

※日頃の訓練で使い慣れておくことで、災害時にスムーズに活用することができる

（フェーズフリーな備え）

3. 参加ターゲット

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸加入校の 外国人留学生、大学生 20 名程度

※実施内容によって、地域住民（外国籍住民含む）にも呼びかける。

4. コミュニケーションツールの媒体

既に、兵庫県国際交流協会が、避難所で使う多言語指さしボードを作成している。災害が発生してから避難所につくまでのコミュニケーションツールをカード形式で制作する。

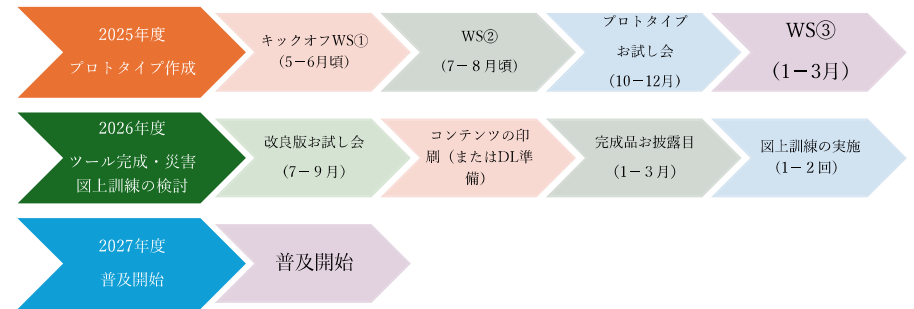
（印刷配布なのか、ダウンロード形式での頒布なのかは要相談）

5. 言語について

兵庫県下に住まれている国籍の方の割合から検討。

（やさしい日本語、英語、中国語など） ※2-3 言語で検討。

6. 開発に向けて



【2025年度(案)】

■キックオフ・WS① 5-6月：南海トラフ巨大地震について映像（内閣府）のを用いて学ぶ

講義・WSを通して南海トラフ巨大地震を疑似体験のワークショップの内容を検討

（地震・津波の時で避難場所が変わる、津波の到達エリアを知る、避難の仕方（垂直避難・平行避難）

※「逃げる」必要を知る

■WS② 7-8月：命を守るコミュニケーション・言葉を考える

避難するときに、どのように伝えたらいいのか（外国人→日本人、日本人→外国人）

どのように不安を伝えられるのか、または伝わりやすい工夫は何か

※プロトタイプを作ってみる

■プロトタイプお試し会 10-12月：地域の防災訓練や防災イベントで体験いただく

■WS③ 1-3月：改良版を作成

7. 予算（案）※【取組1】兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業予算より拠出予定

費用項目	2025 年度	2026 年度	合計
全体コーディネーター謝礼 @30,000 円/回	120,000 円	120,000 円	240,000 円
ゲスト講師謝礼 @15,000 円/回	60,000 円	60,000 円	120,000 円
学生交通費 @1,000/回×20 名×回数	80,000 円	80,000 円	160,000 円
消耗品費（プロトタイプ印刷用紙など）	10,000 円	10,000 円	20,000 円
委託制作費（印刷製本など）	0 円	220,000 円	220,000 円
合計	270,000 円	490,000 円	760,000 円

以上

課題⑤	課題⑤外国人留学生と日本人学生等の交流促進		
達成目標	①本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上（期間中2回測定） ②プログラム数 10件以上/5年		
課題を解決する 取組概要	加盟校の国際交流プログラムとの連携促進事業 ①学生海外派遣プログラム(神戸常盤大学大学) ②事業年度内で加盟校で企画・実施し、加盟校に開放された国際交流プログラム		
活動指標	プログラム数 2件/年		
計画（4月記載）		自己評価（12月記載）	報告（3月記載）
①学生海外派遣プログラム 神戸常盤大学 【アメリカ・ネパール 医療検査コース】 先端医療技術を用いて高度な医療を提供しているにも関わらず、高額医療費故に十分な医療を受けられない人もいるアメリカ。日本と比較して医療施設や保健施設が整っていないネパール。 文化的、社会的に全く異なる国を訪問し自らの目で見て体で感じ、帰国後報告会とディスカッションを通して、医療に対する国際感覚を高めることができるプログラム。 [実施期間] 参考 2024年度実施 アメリカコース：2024 年 9 月 13 日（金）～9 月 23 日（月）の予定 ネパールコース：2024 年 9 月 2 日（月）～9 月 11 日（水）の予定 [参加費用] アメリカコース 35－45 万円程度 ネパールコース 25－35 万円程度 ※為替レートによって変動する場合あり 【オーストラリア 看護コース】 世界でも有数の医療福祉先進国と言われているオーストラリアで、医療福祉施設の視察や現地で働く看護師さん達との交流、看護大学での学習体験など、自らの目で見て体で感じる体験型プログラム。 [実施期間] 2024 年 9 月 9 日（月）～9 月 17 日（火）の予定 [参加費用] 35-45 万円程度（航空運賃、宿泊費、研修費、食事代、現地での交通費等含む） ※為替レートによって変動する場合あり ②各加盟校の強み・特徴を活かした国際交流プログラムの加盟校への開放で、以下の効果が期待されるプログラム ○自学では得ることができない学びの経験とネットワークの構築の機会を学生に提供でき、加盟校の学生の学びが深まり、幅が広がることが期待されるプログラム ○加盟校が抱える国際交流の課題を加盟校間で共有し、解決に向けたプログラムを実施することで、加盟校全体の国際交流の課題解消、多文化共生社会で活躍する学生の育成に繋がる効果が期待されるプログラム			
達成目標に対する実績			
活動指標に対する実績			
自己評価基準：対到達目標 ※			—
自己評価基準：対継続性 ※			—

事業収支				
収入	支出	収支	支出	収支
50,000円				
理事会からの改善提案（次年度事業計画に反映）				
（企画運営委員会で原案作成、理事会承認を経て事務局にて記載、各事業委員会にフィードバック）				

※自己評価基準：対到達目標

4：当初計画を上回って達成
3：当初計画を達成
2：当初計画をやや下回った
1：当初計画を下回った

※自己評価基準：対継続性

4：本プログラムは継続すべき
3：本プログラムは継続しても良い
2：本プログラムの継続には改善が必要
1：本プログラムは中止すべき

2024 年度 大学コンソーシアムひょうご神戸学生派遣プログラム 実施報告

神戸常盤大学

医療検査 アメリカコース

実施期間：2024 年 9 月 13 日（金）～9 月 23 日（月）

引率者：神戸常盤大学保健科学部医療検査学科 教授 坂本秀生

参加学生：5 名

研修内容：UCSF メディカルセンター、University of Michigan スパロー病院、University of Michigan メディカルセンター、ミシガン州立公衆衛生研究所、MSU 臨床検査学科の微生物実習と輸血検査実習へ参加、MSU 健康管理センター、MSU 希少放射線研究所、にて研修ならびに MSU 学生と交流を行った。



医療検査 ネパールコース

実施期間：2024 年 9 月 7 日（土）～9 月 16 日（月）

引率者：神戸常盤大学保健科学部医療検査学科 教授 鈴木 高史

参加学生：3 名

研修内容：Shiba-Kuti 研究所にてライ教授の講義、採水・水質検査試験、抗生剤耐性菌の検出とゲノム DNA 抽出、ナガルコット・チャングナラヤン・カトマンズにて採水、水質検査試験、ネパール医科大学病院見学、医療技術系学校にて学生との交流を行った。



N 科 オーストラリアコース

実施期間：2024 年 9 月 9 日（月）～9 月 17 日（火）

引率者：神戸常盤大学保健科学部看護学科 教授 谷口由佳

国際交流センター 事務局 青木弥生

参加学生：6 名（うち 1 名は 関西国際大学保健医療学部看護学科学生）

研修内容：ニューキャッスル大学（ゴスフォードキャンパス）、TAFE NSW (Technical and Further Education Commission)にて研修実施、Peninsula Village(高齢者施設)にて見学およびレクリエーション実習実施、Gosford Private Hospital ならびに WayWoy Hospital にて見学研修実施、医師・看護師との交流を行った。



<参加者の声>

・オーストラリアでの看護研修は、私にとって非常に貴重な経験でした。異なる医療システムや文化に触れることで、新たな視点を得ることができ、将来の看護について深く考えるきっかけとなりました。特に英語でのコミュニケーション能力を向上させようと思ったことは大きな成長でしたし、患者さん一人ひとりに真摯に向き合う姿勢の重要性を再確認しました。今後は、オーストラリアで学んだ患者中心のケアを意識しながら、日本での実践に活かしていきたいです。さらに、他大学の学生との交流を通じて新たな刺激を受け、かけがえのない仲間にも恵まれたことに感謝しています。

・参加したことで視野が広がり、物事の捉え方や対人関係など、様々なことでの考え方が変わった。今後、社会人としてこのような研修があっても、大学生としてでしか味わえない貴重な経験ができた。

・アメリカの医療現場を味わえたことで、日本との医療体制の違いなど国際理解が深まった。さらに、アメリカ現地での様々な経験が今後の糧となった。

・ネパールの水質状況や、医療体制の仕組みなどを深く学ぶことができ、知識が広がったと感じた。

2024年度夏 大学コンソーシアムひょうご神戸学生派遣プログラム

フィールドワーク型プログラムとは

先端医療技術を用いて高度な医療を提供している「アメリカ」
日本と比較して医療施設や保健施設が整っていない「ネパール」
自らの目で見て体で感じ、帰国後報告会とディスカッションを通して、医療に対する国際感覚を高めることができるプログラムです。
また、単位互換制度を利用して単位認定を受けることもできます。

注) 本プログラムは神戸常盤大学の選択授業である、国際保健医療活動IIを開放科目として提供しています。
各国・各コースへ神戸常盤大学生の参加が履修規定者数未満の場合、該当コースのみ開催しないことがあります。

今しかできない経験を 世界を知る、広がる可能性

2024年9月実施 医療検査コース

医療系プログラムフィールドワーク型 学生海外派遣プログラム



説明会

4月6日(土)

10:40～

【申込方法】メール件名「コンソ海外研修説明会申込」とし、
本文に大学名、学部、学年、氏名を記載の上、
問い合わせ先メールアドレス宛にお申込みください。

【申込締切日】4月5日(金) 16:00まで

【問合せ先】gcc@kobe-tokiwa.ac.jp

提供校：神戸常盤大学

2024年度 大学コンソーシアムひょうご神戸学生派遣プログラム

2024年9月実施 オーストラリア看護研修

自らの目で見て体で感じ、帰国後報告会とディスカッションを通して、医療に対する国際感覚を高めることができるプログラムです。
また、単位互換制度を利用して単位認定を受けることもできます。

今しかできない経験を
世界を知る、広がる可能性



Gosford Hospital



University of New Castle, Gosford



ナイチンゲール博物館

説明会

4月6日(土)10:40~

申込方法

メール件名「コンソ海外研修説明会申込」とし、本文に大学名、学部、学年、氏名を記載の上、問合せ先メールアドレス宛にお申込みください。

申込締切

4月5日(金) 16:00まで

問合わせ先

gcc@kobe-tokiwa.ac.jp

注) 本プログラムは神戸常盤大学の選択授業である、国際保健医療活動IIを開放科目として提供しています。各国・各コースへ神戸常盤大学生の参加が履修規定者数未満の場合、該当コースのみ開催しないことがあります。

提供校: 神戸常盤大学



【2025年度 国際交流委員会 事業予算】（案）

資料1-4

（単位：円）

		予算	各プログラム 予算				委員会 予算	
			【取組1】		【取組2】			
			兵庫国際交流会館における 国際交流拠点推進事業 (JASSO受託事業)		加盟校の国際交流プログラムとの 連携促進事業			
			内訳	予算額	内訳	予算額	内訳	予算額
収入	会費収入	150,000				50,000		100,000
	助成事業収入	0						
	受託事業収入	9,625,000	JASSO受託事業収入	9,625,000				
	プログラム収入	0						
	雑収入	0						
	戻入金	0						
	計	9,775,000	9,625,000		50,000		100,000	
支出	会議費	70,000	会議費	50,000			会議費	20,000
	旅費交通費	150,000	旅費	100,000	旅費交通費	20,000	旅費交通費	30,000
	通信運搬費	70,000	郵便、通信費	50,000			通信運搬費	20,000
	消耗品費	60,000	消耗品費	60,000				
	新聞図書費	10,000	新聞図書費	10,000				
	印刷製本費	30,000			印刷製本費	30,000		
	光熱水料費	0						
	賃借料	40,000	賃借料	40,000				
	保険料	0	保険料					
	謝金	1,201,000	諸謝金	1,181,000			謝金	20,000
	租税公課	0						
	支払手数料	22,000	振込手数料	22,000				
	諸会費	0						
	委託費	852,000	H P制作費・業務委託	852,000				
	人件費	7,260,000	コーディネーター	7,260,000				
	接待交際費	0						
	支払支援金	0						
	雑費	10,000					雑費	10,000
	計	9,775,000	9,625,000		50,000		100,000	

収入-支出	0
-------	---

第 22 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム（2025 年兵庫県開催）について

1. 実施概要

開催日：2025 年 8 月 30 日（土）・31 日（日）

会 場：神戸学院大学 ポートアイランド第 1 キャンパス

共 催：全国大学コンソーシアム協議会、一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸

テーマ：「激変する将来社会を切り拓く新たな人材の育成にむけて

～不易流行で考える大学間連携と産官学協働～」

大会趣旨：（要約）

高等教育は「少子化」や「デジタル化」といった外部要因、高校生の学びの変化に対応し、大きな転換期を迎えている。高度専門人材の育成には、文理融合教育やリカレント教育の推進が求められ、地域の産官学連携が不可欠である。高等教育機関は「不易流行」の視点を持ち、「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」を踏まえて変化するべき点を見極める必要がある。大学コンソーシアムひょうご神戸では、留学生インターンシップを継続してきたが、変化と不変の要素が混在している。本フォーラムでは、大学間連携の本質を考え、最新の取組について知見を得ることを目的とする。

2. スケジュール

◆ 1 日目：2025 年 8 月 30 日（土）

13:00-13:15	開会挨拶	12:00- ポスター セッション・ パネル展示
13:15-13:25	学生ステージ A	
13:30-15:10	シンポジウム①話題提供	
15:10-16:30	休憩 ★コアタイム	
16:30-16:40	学生ステージ B	
16:45-17:30	シンポジウム②ディスカッション	
17:30-17:45	閉会挨拶	
18:00-19:30	情報交換会	

◆ 2 日目：2025 年 8 月 31 日（日）10:00～12:00 分科会__

3. 今回のご依頼内容について

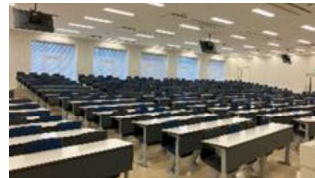
今回本フォーラムを兵庫県で開催するにあたり、他エリアのコンソーシアム・大学からの参加者に「兵庫らしさ」を感じていただける機会にしたいと考えています。兵庫県は、日本でも有数の多様性に富んだ地域であり、外国人留学生が多いことも大きな特徴です。このような環境だからこそ、異文化の共生・融合があり、新たな価値が生まれる場となっています。

そこで、プログラム内に予定されている学生ステージを、外国人留学生による企画として実施し、彼らの文化を紹介する場にしたいと考えております。多様性あふれる兵庫の魅力を来場者の方に体感していただき、より深い理解や交流につなげたいと思います。

つきましては、適した企画や出演者に関する情報をお持ちでしたら、ご提案いただけますと幸いです。

※【補足】会場について

会場となるのは、神戸学院大学 ポートアイランド第 1 キャンパス D 号館 101 講義室です。演目は、講壇（壇上スペース約 2.0m×18.0m）および前列の机との隙間部分での披露となるため、使用できるスペースが限られておりますことをあらかじめご了承ください。



【参考】

◆シンポジウムについて

今回のシンポジウムでは、「人材育成」「大学間連携」「産官学連携」をテーマに、基調講演およびディスカッションを行います。基調講演には以下の皆さまをお迎えし、兵庫県に本社を構える企業の経営者、大学教員、大学職員の立場から、それぞれの視点でご意見を頂戴します。

シンポジスト

日本テクノロジーソリューション株式会社 代表取締役社長 岡田 耕治氏

エクスアールジョン株式会社 代表取締役会長 株式会社 ShimaFuji IEM 代表取締役 島藤 真澄氏

國學院大學観光まちづくり学部教授、東京大学名誉教授 吉見 俊哉氏

関西学院大学 学生活動支援機構 事務部長 本荘 雅章氏

モデレーター

大学コンソーシアムひょうご神戸理事（関西国際大学 学長）濱名 篤氏

◆参加費について

○参加費 （一般）5,000 円 /（学生）無料

○情報交換会（一般）4,000 円 /（学生）2,000 円

※達成目標は中長期計画立案時に、活動指標は各年事業計画立案時にそれぞれ策定

国際交流委員会								
	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業	4	4	兵庫国際交流会館を拠点に、日本文化、就活、防災、ファシリテーションなどで、留学生を積極的に活動に取り込んでいることについては評価できる。留学生からのヒアリングを丁寧に継続するとともに、日本人学生との関わりもさらに補強してプログラム内容に盛り込むことを期待したい。また学生・留学生主体の企画にも引き続き重点をおき、さらなる内容と質が充実するよう、コーディネートを工夫することに期待する。留学生の日本定着を目指すにあたり日本人学生が果たす役割は大きい。英語が苦手な日本人学生にとっても留学生との交流は有益であるため、より裾野の広いプログラム展開を期待したい。	①本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する 学生の割合：参加学生の80%以上（期間中2回測定） ②参加者数 2500名以上/5年	①94. 2% ②参加者数 5562名/3年	参加者数 500名以上/年	参加者数 1552名/年
事業報告②	<加盟校の国際交流プログラムとの連携促進事業> ・学生海外派遣プログラム ・事業年度内で加盟校で企画・実施し、加盟校に開放された国際交流プログラム	4	4	連携プログラム数の増加や新たな連携校（明石工業高等専門学校など）が増えているのは評価できる。今後もさらなる連携校を増やすべく、各大学の意見聴取を強化し、他大学の事情にあった連携プログラムを創出し、参加者の多様性の拡大を期待したい。	①本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する 学生の割合：参加学生の80%以上（期間中2回測定） ②参加者数 10件以上/5年	①98. 6% ②プログラム数 11件/3年	プログラム数 2件/年	プログラム件数 6件/年

②学生交流委員会								
	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	<テーマ型の学生交流プロジェクトの実施> WILL BE プロジェクト・地域子育て支援拠点・こどもの居場所でのボランティア等活動	2	2	加盟校ならびに行政が有する子育て支援施設や子どもの居場所と連携するボランティア活動は、学生のニーズもあり、支援体制を構築できている点は評価できる。また、外部資金を活用して交通費等、学生の経済的負担を軽減できている点も評価したい。ただし、学業との両立（学校からの移動距離・授業時間等との兼ね合い）において、一部学生の参加にとどまる傾向があるため、より多くの加盟校学生が参加しやすい事業内容についても検討いただきたい。	参加学生数50名以上	参加学生数のべ14名 （申込者28名・参加者11名）	参加団体5団体以上 個人参加15名以上	1 団体2名参加 個人参加12名
事業報告②	<テーマ型の学生交流プロジェクトの実施> WILL BE プロジェクト・ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト	4	2	地元企業・協賛企業との連携プロジェクトとして3年目を迎え、新たに兵庫県が共催に加わるなど、プロジェクトの社会的価値が高まり、学生の地元企業理解や成長機会に本取組が寄与してきた実績を評価したい。同時に、次年度以降の継続については、連携先との協議の上、コンソ事業としてふさわしい関わり方を検討いただきたい。		参加学生数のべ82名 （参加者66名）	参加学生のチーム活動／月1回以上 （活動期間中）	月1 回以上、参加学生のチーム活動を開催した
事業報告③	<テーマ型の学生交流プロジェクトの実施> WILL BE プロジェクト>③兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project ～2025年大阪 関西万博に向けて～兵庫県「ひょうごフィールドバビリオン」との連携～	4	3	加盟校の学生たちが元気になる学生交流活動として、2025年「大阪・関西万博」と連動して、当初計画通り、2 年にわたり、単なるお祭りのな交流活動にとどまることなく、地域課題の解決も視野に入れて、兵庫の魅力を発見・発信する学生の活動そのものが、兵庫県の魅力向上に寄与した点は評価したい。今後も、加盟校の学生が地域で活躍する姿を国内外に発信機会するがあれば、取り組んでいただきたい。		参加学生数のべ61名 （参加者30名）		月1 回以上、参加学生のチーム活動を開催した
事業報告④	<学生発信ブランディング> 加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施	2	3	コンソHP上にて「地域で輝く学生」と題して、各加盟校の特長ある地域活動を通じて、学生が地域に貢献する姿をわかりやすく伝え、コンソーシアム加盟校全体の認知度が高まる活動は重要である。次年度も引き続き、広報活動の活発化に取り組んでいただきたい。	情報公開数200取組以上	74取組/3年	各加盟校からの情報提供/年1 回以上 情報公開数40取組以上/年	21取組（年内40取組掲載予定）/年
事業報告⑤	<学生発信ブランディング> 若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」	3	4	阪神・淡路大震災を経験したコンソーシアムとして、震災を知らない世代の加盟校学生たちが兵庫県の防災啓発動画を作成する本取り組みは、意義深い活動であると評価できる。次年度は、SNSを活用した情報発信活動の実施、また全国コンソーシアム研究交流フォーラムにて、加盟校での各取り組みと共に、オールひょうごとして防災・減災への意識向上に向けて発信いただきたい。	参加加盟校数10校以上/年	加盟校参加数 6校	参加団体1団体以上 個人参加20名以上	個人参加11名

③教育連携委員会								
	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	単位互換事業の実施	4	4	教育のICT化や共同開講など、学生への多様な学びの機会の提供について引き続き検討頂きたい。また、興味のある学生に情報が届くよう単位互換制度の認知度向上に向けて、広報について改めて検討頂きたい。	各年開放科目数10科目以上	128科目（18校）/年	送り出し校数・5校/年	11校（61名）/年 ※対面52名、オンデマンド9名
事業報告②	多様な学修機会の提供	4	4	継続的な加盟校の教育資源の共有と相互連携の取組として、加盟校の公開講座を対面実施以外にもオンライン実施も含めて広く開放し、多様な学生の交流を促進し、学修経験の強化を引き続き図って頂きたい。eラーニングシステムについても、コロナ禍以後、オンライン学修やリメディアル教育など多様なニーズが生まれている。引き続き加盟校に周知を行い、加盟校全体のICTを活用した教育資源向上に期待している。	各年プログラム数5件以上	17件（7校）/年	参加者数50名以上/年	参加者数 1684名/年

④キャリア委員会								
	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	大学連携組織を活用した県内大学生の地元就職促進プロジェクト	2	4	企業と大学をつなげ、教職員とコンソーシアムの関係を深めた点や、教職員に企業や法律家など、多角的な視点での情報提供ができたのは評価できる。加盟校を卒業した“先輩”が、県内企業に入社したきっかけを語る「先輩インタビュー」は、学生に地元就職を意識させる点で有効といえ、継続いただきたい。1～3月のキャリアイベント集客にも帰結するが、次年度以降は、就職活動中の学生に発信内容を届ける一層の取組に期待したい。	①兵庫県内企業理解が深まったことを実感する学生の割合70%以上 ②参加者数 2500名（学生数2250名以上、教職員数250名以上）以上/5年	①88. 3% ②参加者数 1598名/3年（学生1192名、教職員406名）	各年参加者数 500名以上（学生数450名以上、教職員数50名以上） ※事業報告①、②の合計数	参加者数 156名/年（学生64名・教職員92名）
事業報告②	「尼崎市」大学生等向け職場体験事業	4	4	尼崎市内企業への理解を深めた点、参加学生の満足度が非常に高かった点、自治体との連携が深まった点は評価できる。次年度は、自治体や企業ニーズをさらに踏まえ、日本人だけでなく、留学生も対象にした尼崎市内の職場体験事業も進めていきたい。当事業で得たノウハウを他の自治体に広めたり、コンソ事業に取り入れたりするなど、兵庫県全域のコンソとしてのプレゼンスの向上に繋げることを期待する。			参加者数15名以上（事業報告①の達成目標：各年参加者数 500名以上（学生数450名以上、教職員数50名以上）に含む）	参加者数 87名/年（学生64名・教職員23名）
事業報告③	県内企業・団体等の魅力を情報発信	3	4	「WLB認定企業・表彰企業」「兵庫県奨学金返済支援制度導入企業」等、客観的な指標を一元化して掲載することにより、企業の比較や、企業研究の手助けになる点を評価したい。「兵庫県奨学金返済支援制度」については、産業界、自治体が地元就職促進を目的に始まった取り組みであり、学生に周知させることは意義深い。	情報公開企業・団体数120社以上	153社	企業情報の追加掲載 2種類以上	追加情報掲載 2種類
事業報告④	留学生向け就職支援・キャリア教育プログラム	4	4	留学生61名が参加の「ひょうご留学生インターンシップ」や、日本人学生と外国人留学生在がペア形式で参加した「国際交流機関リレーインターンシップ」により、多国籍環境下での就業体験を提供した点は評価できる。一方で、県内での留学生の就職者数が増加する中、早期離職が課題となっている。留学生が自身のアイデンティティを活かした就職・定着を目指すこと、また、外国人の職場定着に貢献できる日本人学生を育成することも視野に入れた事業展開を期待する。	①日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合70%以上 ②参加留学生数 2500名以上	①100% ②参加留学生数 2944名/3年	参加留学生数 500名以上	参加留学生数 774名/年
事業報告⑤	外国人留学生採用ワンストップ支援事業	4	4	ひょうご留学生留学生インターンシップ参加学生の継続的な支援の場として機能していること、個々の留学生の特性に合わせた丁寧な支援により、内定者が出ていること、留学生の就職に纏わる関係機関とより実質的な連携が出来ていることは、評価できる。今後も、個々の留学生への丁寧な支援、企業の潜在的ニーズに触れる丁寧なヒアリングと、多角的な視点での連携先の開拓や関係強化により、留学生の県内企業定着を促進することを期待する。	①日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合70%以上 ②参加者数 250名以上	①80% ②参加者数 214名/3年	参加者数 50名以上	参加者数 74名/年

<自己評価基準>
対到達目標：4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った
対継続性： 4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき

⑤高大連携委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	大学と高等学校の意見交換会の実施「ひょうご高校大学コンソーシアム」	4	4	兵庫県下の大学と高校の連携・接続に関する課題の共有、およびその課題について意見交換が継続的に行われている点については評価できる。引き続き、兵庫県下の高大連携を深め、人材育成の取組促進・人的ネットワークの構築を図るための活動を推進してほしい。	各年参加校数20校以上	参加校数 22校/年	意見交換会等の実施/年1回以上	意見交換会を1回実施
事業報告②	加盟校の魅力を情報発信	3	4	コンソHPでの情報発信や、県下の高等学校への情報共有など高大連携に関する情報を提供している点については評価できる。今後も継続して、オンラインはもちろん説明会やパンフレットなどのオフラインも併用しながら、高校の教職員・高校生・保護者への、加盟校の情報を発信していただきたい。	各年情報提供先数 高等学校等200か所以上	情報提供先数 200か所以上/年 (兵庫県立学校長協会・県下高等学校への情報提供)	大学コンソーシアムひょうご神戸 ホームページへの情報掲載 アンケート等の実施/年1回以上	コンソHPへの情報掲載1回

⑥FD・SD委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開	4	4	加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開について、コンソーシアム内で情報共有の仕組みを構築し、通年を通して加盟校教職員の受講機会を提供し、教職員の資質向上に寄与できている点は評価できる。今後も継続的に加盟校のニーズを踏まえたFD・SDへの取組みを進めていただきたい。	各年セミナー5件以上	9件（10校）のFD・SDセミナーを公開/年	参加者数 100人以上/年	参加者数 758人/年
事業報告②	<FD・SD情報交換会、セミナー等の開催> 加盟校教職員を対象とした大学教育等に関する講演会等の開催	3	4	加盟校に共通する大学教育が直面する喫緊の課題について、加盟校のニーズを踏まえたセミナーに取り組んでいることは評価できる。FD・SD共通化への施策の検討を含めて、大学が単独で行うよりもコンソーシアムで実施する意義がある活動を推進いただきたい。	各年参加者数50名以上	参加者数 148名/年	開催数 3回以上/年	開催数 1回/年
事業報告③	<FD・SD情報交換会、セミナー等の開催> 加盟校教職員を対象とした内部質保証システム等に関するFD・SDセミナー等の開催	4	4	近年、重視されている認証評価・IRなどについて、体制作りから実質化まで苦慮されている加盟校の現状を踏まえたセミナーを継続的に実施できた点は評価できる。今後も加盟校のニーズを柔軟にとらえ、時宜にあった取組を検討いただきたい。		参加者数 149名/年		開催数 2回（実施予定含む）/年

⑦企画運営委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	・リカレント教育の普及促進に向けた取組 ・加盟校のリカレント教育に関する情報発信	3	4	兵庫県からも県内大学におけるリカレント教育の取組促進、機運の醸成がコンソに対して期待される中で、本取組を継続できていることは評価できる。引き続き、先進事例や課題を共有し、加盟校が連携してリカレント教育の普及に寄与いただきたい。	①各年参加者数50名以上 ②各年10校以上	①2025年3月5日「リカレントフォーラム」開催予定。参加者数は現時点未定 ②28校/年	大学・企業関係者による講演・意見交換会（年1回以上）	①2024年3月5日「リカレントフォーラム」開催予定(1回)
事業報告②	・大学間・地方自治体・企業・地域団体との連携体制の構築 ・緊急時の加盟校間の協力・情報提供体制の構築	4	4	企画運営委員会及び、ひょうご産官学連携協議会等での懇談については、次年度以降も定期的に実施し、産官学の連携体制の強化について、意見交換の場を設けていただきたい。次年度開催の全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムに向けては、加盟校自身がコンソ活動への理解を深め、所属意識を高めながら、コンソ活動ならびに加盟校活動を他エリアのコンソ・大学に周知できる場をつくり出すことに期待している。また緊急時リスクマネジメント体制の構築については、定期的な見直し・改善を行い、より実践的な関係性構築に向け検討を重ねていただきたい。	①大学間連携の特徴を生かした地方自治体・企業・地域団体との連携の拡充 ②緊急時の情報共有・ネットワーク体制の構築	①企画運営委員会、産官学連携協議会、産業界との協議・意見交換及び、企業課題解決プログラムの実施等により地方自治体・企業・地域団体との更なる連携を拡充した ②「リスクに関する情報連絡会」を開催、緊急時の情報共有・ネットワーク体制の構築した	①大学・企業関係者による講演・意見交換会（年1回以上） ②大学・企業関係者による講演・意見交換会（年1回以上）	①企画運営委員会（原則月1回開催）：8回実施済（年度内計12回実施予定） 産官学連携協議会：1回実施済（年度内計2回実施予定） 産業界との意見交換会：1回実施済（年度内計2回実施予定） ②リスクに関する情報交換会：1回実施済（11月末時点）
事業報告③	加盟校が活性化する事業運営体制の整備と推進	4	4	事務局運営の効率化・プロセスの可視化・情報管理や共有に関しては、継続的な評価と改善を行い、最適な効率化を図る必要があるため、継続して取り組んでいただきたい。アンケート等で導き出された課題（コンソの認知度や関心）については適宜、企画運営委員会や各事業委員会等で協議しながら、各取組みがよりよいものになるよう活かしていただきたい。 また各ワーキングでの課題（全国コンソ、会費、リスクマネジメント・リカレント）について、導き出された解決策を具体的に運用することで、次年度以降のさらなる事業活性化・安定的な運営体制の構築を図っていただきたい。	加盟校の共通課題に協働して取り組む事業運営体制の構築	コンソHPを活用し加盟校へ情報共有を行った。新たな取り組みとして「加盟校で働く教職員の方へ」のウェブページを新設し、各大学の教職員募集情報の一元化を実施した。また企画運営委員会にてWGを設置、課題解決に向け議論を深めた。	企画運営委員会等における懇談の実施（年10回以上）	企画運営委員会（原則月1回開催）：8回実施済（年度内計12回実施予定）（11月末時点）

<自己評価基準>

対到達目標：4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った
対継続性：4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき